

令和8年度第2回TAMA女性センター市民運営委員会 会議概要

開催日時： 令和8年5月22日(金)10:00～11:30

場 所： TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：【委員長】野寄理佳子委員、岡田貴子委員、櫻田万里委員、【副委員長】島田直広委員、藤江美也子委員(委員長以下 50 音順)

欠席委員： 田中伶委員、吉岡希実子委員

TAMA 女性センター(事務局)： 成澤主任、小泉主事

傍 聴 者： なし

司 会：【委員長】野寄理佳子委員

< 配付資料 >

- 当日配付 (1) 第4次 多摩市女と男がともに生きる行動計画(中間見直し版)
- (2) 各委員から事前に提出のあった事業案

1. 開会

2. 今年度の事業について (委員発言：●)

第2回委員会では、各委員が作成した資料などをもとに事業案を発表し、それぞれの問題意識を共有した。

意見共有の結果、それぞれ既存の事業や資源を届けたい人に確実に届けることに関心があるということがわかり、様々な事業や資源があるからこそ、届ける内容や届ける対象を今後の議論で深めていきたいということが共通認識となった。情報を届けるためには、事業などに人を集める必要があり、内容を充実させるだけではなく、広報の仕方も同時に検討していくことも大切であると意見がまとまった(以下、委員の意見抜粋)。

●地域における課題が多様化するなかで、既存の事業・場・資源を活かした事業を行いたい。「必要な情報を必要な人に届ける」「参加のハードルを下げる」「幅広い世代との接点を増やす」という視点を大切に、小規模な試行を通して検証・改善を行っていきたい。具体的な取組としては、既存の情報をより届けやすくするための「地域情報の再編集」や地域の方々の日常的な悩みなどを理解するための「地域の声の可視化」を提案する。そこからテーマ検討を進めていくのが良いのではないかと。

●活動としては、既存のものを活用していきたいが、問題意識は世代・居住地・性別などによって異なるため、どこに焦点をあてるかを今後検討していく必要があると考える。これまでの市民活動において、内容が良くても人が集まらないという経験をし、広報がいかに難しいかを実感した。そのため、新たな広報の仕方にチャレンジするなど、試行錯誤をしながら市民運営委員の活動に取り組んでいきたい。

●子どもの性被害防止について関心がある。性教育については、親が教えなくても自然に学ん

でいくという意見もあるが、子どもたちが手軽に SNS を利用できるようになり、いつ被害に遭うかわからなくなったからこそ、親子が当事者として知識を得る機会が必要だと思う。子どもの性被害防止以外にも避難所での性被害防止など防災対策にも関心がある。防災対策については、TAMA女性センター以外の部署とのコラボレーションも良いのではないか。また、外国人が増えてきている中で、日本語が話せない外国人が一定数おり、その方々が誰にも相談できない現状にも問題意識がある。

●性被害や性教育のテーマは一見焦点が絞られているように見えるが、命を守るということで大きく捉えることができる。加害者の孤立のケアか、被害者を生まないように守るかは検討事項だと思う。

●性教育に関心があり、子育て世代や高齢者世代を巻き込んで、被害に遭わない・加害者にならないようなことに取り組みたい。学校側は混乱が起きてしまうのではないかと伝えることが限られてしまい、親も恥ずかしくて伝えられない場合、子どもはインターネットの知識に偏ってしまう。市民運営委員として、学校現場から規模を大きくし、情報提供をしていきたい。

●地域の方々が知りたがっている社会が抱える課題をすぐに発信するような環境にしていきたい。既存資源の活用に関して改善できるところがあるのではないかと感じており、既存資源を扱うような事業を行っていきたい。地域の方々の意識としては、高齢者世代の男女平等に対する意識が低いように感じる。高齢者世代の意識が変わり、子や孫世代の認識が変わるような循環を目指していきたい。社会の構造が生きづらさをつくり上げていると考え、すべての人が生きやすくなれるよう、幅広いテーマを扱っていきたい。

3. 次回以降の活動日程

第3回は6月26日(金)10時からということを確認した。第4回以降は欠席委員の意向を踏まえるため、後日決定することになった。

4. その他

今回は、今後の方針を決める時間とすることを確認した。次回の開催までに、それぞれ広報の仕方を検討し、意見をまとめてくることとなった。

5. 閉会